

億円(0.8%減)、営業利益223億7,300万円(29.1%減)▽電器事業=売上高773億円(16.4%減)、営業利益32億1,200万円(57.1%減)▽住宅建材事業=売上高4,019億円(1.5%増)、営業利益4億3,500万円(82%減)▽電子材料事業=売上高6

世界銅需要予測に基づく日本及び中国の 非鉄金属リサイクルの現状と展望②

橋本健一郎氏講演要旨

世界の銅需給はどうなってしまうのか。現状について見て行く。はじめに世界の銅消費量の推移を見ていく。ポイントは大きく分けて2つ。①世界の銅地金需要は2007年に1,800万トンへ、②2002年世界最大の需要国は米国から中国へ。97年には1,200万トンであった世界需要は「アジア通貨危機」や「ITバブル崩壊」を乗り越えて2007年には600万トンの増の1,800万トンになった。その中でもっとも影響を与えたのは中国であった。97年に1,200万トンだった中国は2000年から急上昇、ついに2002年には米国を抜き世界最大の需要国となった。特に世界の工場としての地位を確立した労働集約型経済モデルは中国に多大な発展をもたらした。

世界の銅消費量の推移



その中国の世界経済への台頭におけるポイントは次の2つ。中国は①世界銅需要の4分の1を占める、②一人当たり銅地金消費量が先進国と比べて少ない。急激な経済発展のもとで世界のシェアの4分の1を占めるまでに達した中国だが、その人口は日本の10倍にも及びながら、一人当たりの消費量は3分の1しかない。これは現在の中国における絶対的な量の不足、そして経済発展に伴う将来の飛躍的な銅需要の増加を意味している。

次に、中国から用途別銅需要見通しが発表されている。楽観シナリオ、悲観シナリオの大きく2種類の見通しが出されており、供給面（使用原料＝何を使って）は銅地金とスクラップ、需要面（生産用途＝何を作ったか）はワイヤー・ロッド（銅線）と伸銅品とで計上されている。それに

02億万円(12.8%減)、営業利益33億7,300万円
(43.5%減)▽制御機器事業=売上高1,406億円
(8.9%減)、営業利益57億3,400万円(49.1%減)
▽その他の事業=売上高273億円(7.7%減)、営
業利益47億9,600万円(20.4%減)。

よると全体のトレンドは、楽観シナリオで見た場合06年に全体で約533万トンであった需要が10年には年率プラス8%の697万トンへ。次に悲観シナリオの場合、10年には需要全体で年率プラス4%の623万トンの予測が示されている。

中国の用途別銅需要見通し

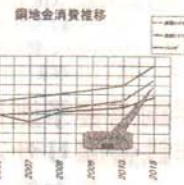
年	2006	2007	2008	2009	2010	2015
総計のシェア比率						
新製品	4,507	4,905	4,515	4,063	3,364	7,558
スラップ登録商標適否	1,423	1,388	1,572	1,346	1,398	1,531
前年比	5,327	5,663	6,067	5,599	4,531	9,061
パワーワード登録商標	2,519	3,140	3,269	2,966	3,562	5,311
特許品	2,415	2,538	2,691	2,841	3,508	3,760
前年比	5,327	5,663	6,068	5,599	6,070	9,061
特許のシェア比率						
新製品	3,303	3,991	4,229	4,474	4,637	5,743
スラップ登録商標適否	1,424	1,563	1,544	1,514	1,546	1,483
前年比	3,544	3,544	3,544	3,544	3,544	3,544
パワーワード登録商標	2,912	3,056	3,210	3,339	3,472	4,090
特許品	2,415	2,480	2,563	2,640	2,753	3,176
前年比	5,327	5,544	5,773	5,985	6,222	7,250

中国の部門別銅需要見通し

項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011
新設のレジャー	1,899	2,016	2,161	2,320	2,567	2,126
・入居費	1,450	1,548	1,742	1,750	1,820	2,243
・設備費	1,074	1,171	1,200	1,277	1,490	2,014
・修繕	330	378	423	466	536	724
・広告費	218	327	360	379	432	612
・その他	254	229	243	215	207	370
合計	5,307	5,693	6,087	6,510	6,970	9,060
既存のレジャー						
・入居費	1,893	1,934	2,008	2,170	2,364	2,583
・設備費	1,450	1,501	1,543	1,689	1,621	1,779
・修繕	1,074	1,122	1,162	1,258	1,294	1,794
・広告費	303	362	381	411	444	602
・その他	318	309	338	348	368	415
合計	5,048	5,444	5,742	6,205	6,226	7,140
増減	259	249	345	305	744	1,920

では、それらの内訳を部門別の見通しで見て行く。こちらも同様に樂觀、悲観それぞれのシナリオがインフラ、一般消費財、建設、輸送、産業機械、その他の6部門に渡って予測されている。銅地金については樂觀、悲観どちらのシナリオでも全体の上昇率とはほぼ同率で上昇しており2015年ま

では堅調と予測されている。ところがスクラップ需要に関しては06年からトレンドについていけず



故銅
市況

国内採算の大幅値上がりで一段と強含みへ
市中ピカ線買値は29万円辺りまで浮上

故銅市況は、LME銅相場高と為替の大幅な円安・ドル高を受けて国内採算が2万円以上も値上がりしたため一段と強含みに推移している。

25日入電のLME銅相場は38ドル上伸して3.250ドル、NY銅相場も4.95セント上伸し148.40セントとなった。為替は前日比2.42円、大幅円安・ドル高の97.72円、NYカーブは80ドル高で、国内採算値が1万1,500円高の36万4,600円となって、関税を2万5,000円とするとプラスして37万9,600円となり現行35万円建値比2万9,600円高となった。

為替動向としては『東京外国為替市場の円相場は日本の景気悪化を背景に投機筋が持ち高解消の円売りを強めていることから前日比1.67円、円安ドル高の97.02～05円に推移した。(銀行筋)』

為替が2円以上も円安に振れて銅建値計算値は2万円以上も値上がりしたため、「26日に銅建値は2〜3万円引き上げられる可能性が強まってきた」（ある大手間屋）との見方と「もう日数が無いから今月は変えないだろう」（別の大手間屋）との見方が出ている。

フラットがセツルメントで31万2,000円となったことから、レスを2万円とすると29万2,000円となるためピカ練賃は「5,000円ほど引き上げて、29万円前後にする」（複数の大手問屋）との声が聞かれる。

銅建値計算値が値上がりしていることを受けて
各大手問屋の中心買値はピカ線が28万円、上銅新
は26万円、上銅普通は25万円、並銅は21万円、込
銅は20万円、下銅は15万円、セバは23万5,000円、
コーベルは19万5,000円、黄銅醇粉は19万5,000円、
並青銅粉物前粉は19万5,000円どころと、銅上
物は5,000円引き上げられてネゴされている。

あるアナリストは「先日、オーストラリアで大規模な山火事が発生した。オーストラリアの山火事の原因は葉っぱと葉っぱが擦れて火が付く自然

いずれのシナリオでも2010年をピークに若干の減少が予測されている。(続報)

発火が多い。日本は、全体の70%が山で年間2,000件の山火事（ほとんどは小さい山火事）が起きている。日本の場合、山火事になる原因が一番多いのがタバコのポイ捨てだ。自然発火は天災だがタバコのポイ捨ては人災だ。今、米国初の金融危機になっているが原因はサブプライムローンという貧乏人を高級住宅に住まわせるという間違ったことをしたことだ。これは人災だ。しかし人災を非難しても問題は解決しないため米国や中国は70数兆円規模で公共投資をしてアックスルを踏んで経済を右肩上がりにしようとしている。日本も、これから、こういう大型公共投資をしていくことだろう」と述べている。早く日本も経済危機から脱出してもらいたいものだ。

なお、WT1（テキサス産軽質油）原油市場は米因株式が急反発したことを好感して買われ前日比1.52ドル高の39.96ドルとなった。また、日経平均株は122.61円高の7,391.17円、NYダウも236.16ドル高の7,350.94ドルとなった。

市中相場はビカ銀27万～29万円、上銅新くす25万～27万円、普通上銅24万～26万円、2号銅銀20万5,000～23万円、並銅20万～22万円、込銅18万～2万円、下銅14万5,000～16万5,000円、セ22万5,000～24万円、コーベル19万5,000～20万円、黄銅棒地19万～21万円、黄銅粉18万5,000～20万2万5,000円、黄銅ラジエター6万6,800円～7万1,000円、交叉ラジエター10万7,000～11万2,000円、黄銅粉11万5,000～12万円、同山送り7万2,000～7万7,000円、上青銅粉21万～22万円、並青銅粉19万～20万5,000円、上青銅粉削片21万～21万7,000円、並青銅粉削片18万6,000～20万3,000円どころとなり銅建値計算が値上がりしたことから銅上の値が5,000円ほど引き上げられて、一段と強含みに推移している。